

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察防除情報 第2号を下記のとおり発表します。
麦類赤かび病は、出穂期から乳熟期にかけての気象状況によっては、発生量が多くなる傾向があるので適期防除するようご指導願います。

平成28年度 病害虫発生予察防除情報 第2号

麦類 赤かび病の防除対策について

- | | |
|--------|---------------|
| 1 対象作物 | 麦類 (コムギ、オオムギ) |
| 2 病害虫名 | 赤かび病 |
| 3 発生地域 | 県下全地域 |

4 麦類生育状況、気象予報について

- (1) 麦類気象感応調査 (加西市) によると小麦「シロガネコムギ」の出穂期は4月5日となっており、平年 (4月17日) より12日早くなっている。また、所内の奨励品種決定基本調査 (加西市) において11月8日播種の大麦「シュンライ」の出穂期は4月6日であった。
- (2) 神戸地方气象台(4月7日付)発表の向こう1か月予報 (4月9日から5月8日までの見通し) によると、天候は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない見込みとなっている。気温については平年より高い確率が70%、降水量は多い確率50%と予測されている。

5 発生生態・予想について

本病は、開花7~10日頃から発生し、穂の一部または全部を褐変枯死させる。甚大な発生となった被害種子は白っぽい屑ムギとなり、収量や品質が低下するだけでなく、かび毒による汚染を起こすおそれがある。

本病の発生 (第1次感染) は、出穂期から乳熟期にかけての降雨量 (日数) が最大の誘因で、さらに気温の上昇 (20℃~27℃) により感染しやすい好適な条件となることが推測される。本病が、最も感染しやすい時期は、開花期 (約50%が開花) から開花盛期 (約80%が開花) である。

6 防除対策について

- (1) 本病は、開花期に気温が高く、降雨日数が多いと感染し発生しやすくなる。
- (2) 薬剤による防除適期は、開花始めから開花盛期である。品種や播種時期ごとに出穂および開花状況を把握し、遅れないように薬剤散布を行う。なお、出穂期、開花期の予測は農研機構ホームページ*を参照し、品種、アメダス地点名、播種日を選択すると予測できる。予測された開花期より約5日前が防除適期始めとなり、この日から7~10日間が防除適期となる。

※ (http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/karc/2011/180a0_01_33.html)

- (3) 乳熟期以降 (5月上~中旬) も多雨で経過すると二次感染が助長されることから圃場をよく観察し、追加防除を実施すること。
- (4) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。

兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)